

田川地区の高校再編整備計画<第2次計画(骨子案)>に係る地域説明会
【庄内町会場】 記録要旨

- 1 日 時 平成 29 年 11 月 1 日 (水) 19:00~20:55
- 2 場 所 庄内町 商工ふれあい会館コアアルザ (庄内町余目字三人谷地 13-1)
- 3 出席者 地域の方々 87 名
県教委 教育次長、高校改革推進室長、高校改革推進室長補佐
高校改革主査 2 名
- 4 内 容 高校改革推進室長から概要説明後、質疑応答
- 5 質疑応答概要

(質問・意見)

- ① 中高一貫校の初年度は、中学校は 1 年生のみでの開校となるのか。
- ② 中高一貫校の開校の際、鶴岡南高校、鶴岡北高校に在籍していた生徒の扱いは。

(県教委)

- ① 初年度は中学校 1 年生のみ募集し、2 年生、3 年生はいない。3 年目で 1 年生から 3 年生まで揃うことになる。
- ② 2 校統合の際に、新高校の生徒となり、一緒に学び、新高校で卒業することになる。

(質問・意見)

- ① 生徒の数が減少するから、教員定数も減少になるという前提での計画は後ろ向きではないか。
- ② 過去 6 回の地域説明会、H23~H24 に開催された検討委員会の委員 12 人の名前や選出方法、地域関係からの意見聴取の詳細についてお聞きしたい。どのような経過でこの計画になったのか、公開されているのか。これまで、地域、市町村、同窓会にはどのような話をしてきたのか。
- ③ 来年 1 月に第 2 次計画を策定する予定のようだが、拙速ではないか。様々な方から意見をいただいて、1 年くらいかけて策定するべきではないか。
- ④ 吉村知事はこの計画についてどのように考えているのか。

(県教委)

- ① 教員の配置数は、生徒の定員に応じて国の法律「高校標準法」によって決まっており、その分の国から県への財政措置がある。高校でも、義務教育のように少人数学級を編制し教員数を増やした場合、教員増分の費用は県予算でまかなうことになる。義務教育と異なり、高校では理科、社会、芸術など選択科目では少人数に分けて授業しているため、教科の先生も加えて増やす必要があるため、その数は膨大となり、限りある県財政の中では難しい。
- ② 県のホームページに検討委員会の報告書が掲載されており、その中に経過・経緯、検討委員の氏名、アンケートの結果、意見聴取の結果など記載されている。PTA 代表、高校長代表、中学校長代表などの教育関係者、地域関係者に検討委員をお願いした。地域関係者は、それぞれの自治体から推薦していただいた方の中から、産業分野のバランスを考えて選出し

た。

- ③ 来年1月の策定が拙速であるという考えもあるかもしれないが、パブリック・コメントなどで様々な意見をいただく期間を3ヶ月半程度とっている。これまでと比較しても急ぎすぎではないと考えている。
- ④ 基本的に、計画は教育委員会が責任を持って策定していくべきものだが、教育委員会制度の変更を受け、特に重要な事柄については、首長の意見を反映させながら決定する。本計画の骨子案についても、知事の意向を伺いながら教育委員会が主体となって作成している。

(質問・意見)

- ① 庄内日報に鶴岡北高校の同窓会長の意見が掲載された。鶴岡北高校の同窓会長には事前に話はなく、創立120周年の準備を進めている中でこの計画を聞き、大変驚きショックを受けたようである。
- ② 少子化の現状について説明があったが、三川町では、H27、H28の出生数が倍増した(事実と異なる発言)。地域が子育てについて真剣に取り組めば、子どもは増えるはずである。
- ③ 両校共に100年以上の伝統をもち、高校は地域の人材を育てる場所であることを軽視している。少子化に伴い、教員定数、施設設備など問題となることは多いが、教育は、経済効率ではなく、長期的な広い視野に立って考えるべきものである。

(質問・意見)

- ① 庄内総合高校体育館の壁面の補修に感謝する。
- ② 庄内総合高校は町の活性化に繋がっている。H34に庄内総合高校の全日制定員を3学級から2学級に1学級減とすることは決定事項なのか。もし、150人の応募があった場合でも必ず2学級にするのか。

(県教委)

- ② 県立学校の定員減については、県全体、地域の生徒数、他地区からの流入・流出などを考えて計画的に進めている。庄内町の中学校卒業生数の推移、地元中学校からの入学割合などから客観的に判断しても3学級の維持は困難である。庄内総合高校存続への地域の方々の思いをしっかり受け止め、時間をかけて庁内で検討した結果、存続という形になったことを理解いただきたい。全日制が2学級になってしまうと、総合学科の充実したカリキュラムは組みづらくなるが、定時制と通信制の機能を集約することによるスケールメリットを生かし、庄内全体のニーズを取り込む高校になることを期待している。

(質問・意見)

- ① 県立高校の再編整備に関する基本方針では(ウ)「1学年当たり1学級の高校は、入学者数が2年連続で入学定員の1/2に満たない場合は、原則としてその2年後に募集停止とする」となっているが、山添高校にはこのルールを適用しないで募集停止にするのか。
- ② 現在の鶴岡工業高校定時制の就労率はどのくらいか。
- ③ 将来的に酒田西高校の定時制高校はなくなるのか。

(県教委)

- ① 今回の山添高校の募集停止は、地区全体の再編整備計画の中で計画的に実施するものである。他地区において（ウ）のルールにかかる高校が出てくれば、適用することになる。
- ② 鶴岡工業高校定時制への入学者数は、近年は一桁という状況が続いている。全校でも、就労者は正社員として1名、アルバイトとして7名のみである。
- ③ H30年度より酒田西高校が昼間定時制に移行するが、飽海地区のニーズに応える高校となることを期待している。現時点では、酒田西高校定時制を統合する計画はない。

(質問・意見)

- ① 庄内総合高校は、地域にとってなくてはならない高校である。庄内町は、生徒への支援としてキャリア教育などで協力している。これまで庄内総合高校の存続のため、様々な活動を行ってきたが、県は、庄内町と庄内総合高校に期待も込めてこのような計画になったととらえている。地域をあげて学校を支え、魅力のある学校づくり、生徒が自然に入学してくる高校を目指したい。
- ② 第3次計画でも庄内総合が存続するようにお願いしたい。
- ③ 校舎の外観などのハード面の整備をお願いしたい。

(県教委)

- ① 庄内総合高校のために、地域の方々からは支援をいただき大変感謝している。生徒もよく育っている。入学定員を満たし、誰からも認められる高校になることを期待している。今まで以上に地域の力をお借りすることになると思うが御支援願いたい。
- ② 第3次計画では、鶴岡中央高校の校舎制について明らかにする予定であり、庄内総合高校の在り方を更に検討する予定はない。
- ③ ハード面について責任をもって回答できる立場にはないが、生徒の安全面は確保できるように要望していきたい。

(質問・意見)

H24 から庄内総合高校を存続させようと5年間取り組んできた。生徒募集に繋がるよう耐震性のある校舎、魅力ある外観などのハード面の整備をお願いしたい。

(県教委)

校舎建築については、生徒の安全確保は必要だと考えている。

(質問・意見)

現在の鶴岡南高校と鶴岡北高校の在籍生徒を単純にあわせると、女子の割合は7割を超える。統合した中高一貫校の男女比についてどのように考えているのか。

(県教委)

現状でも、男女を分けて募集しているわけではない。どのような男女比になるかは、実際に募集してみないとわからない。

(質問・意見)

庄内総合高校について、全日制、定時制、通信制が併設された高校は聞いたことがなく、ど

のような高校になるのかイメージが湧かない。法的に大丈夫なのか、またそのような高校の例はあるのか、お聞きしたい。

(県教委)

公立では、少なくとも全国で3校ある。新しいタイプの高校であるので事例が少ないが、他県の事例を研究することが必要となる。よりよい高校をつくるためには、当該高校の先生方の力も必要となってくる。課題を抱えた生徒も在籍することが予想されるため、校舎のレイアウトやホームルームの教室の配置など、どのような形にすれば生徒にとって最も効果的なものになるのか、現場の先生の知恵をいただきながら考えていきたい。

(質問・意見)

庄内総合高校に通信制ができると説明あったが、通学交通網の整備・強化の検討はしているのか。

(県教委)

庄内町は交通の要衝であり、適地であると考えている。残念ながら、交通政策まで教育委員会で手の及ぶところではない。

以上